

アガヴェ

リュウゼツラン科 AGAVACEAE

属名 **Agave** [アガーウェー] リュウゼツラン属

英米発音 アーガーヴィ [uh-GAH-vee]、アーゲイヴィ [uh-GEY-vee]

属名由来 命名 リンネ、1753年。ギリシア神話の人物アガウエー (Ἄγαυή <Agauē>) に基づく。この名は「高貴な、名声のある、輝かしい」の意のギリシア語 'アガウオス' (ἀγαυός <agauos>) と関連がある。ラテン語では Agave [アガーウェー] と表す。▼ギリシア神話のアガウエーは、神託によりテーバイに都を開いたカドモスと、アプロディテーの娘ハルモニアとの間の4人娘のひとり。アガウエーは、甥のディオニューソス (のちに神格を得る) に心酔し、信女となる。その教義は、酒と霊力により情念の高揚・陶醉・法悦・快楽を得るもので、狂乱的・獸的・凶暴という側面を持つ。アガーウェーもまた獣を八つ裂きにするほどの残忍性を持つに至り、ついにディオニューソスの布教を妨害した我が子ペンテウスを、息子と気づかぬまま八つ裂きにする。▼リンネ『植物の種』では葉について「舟形で、鋸歯縁に刺があり、葉の先端に鋭い刺があり、葉は小さな槍のようで、固く、繊維質」との説明がある。そのなかに 'rigidissimo' [リグディシモ] という表現がある。「きわめて固い」の意味だが、他に「きわめて粗暴な、残酷な」の意味でも用いられる。

分布 熱帯。おもにメキシコで、合衆国南部・西部、中・南アメリカ、西インド諸島など。

植生 常緑/多年草。地生。砂漠や山などのやせた乾燥地に自生。高さ15cm~5m。

メモ 種の数：200~。熱帯の乾燥地の多肉植物で、風土の特性として生長がゆっくりしている。一回結実性だが、開花までの年月は種により異なる。ユッカ属と近縁。リュウゼツラン (アガーウェー・アメリカーナ *A. americana* L. 1753) は葉の形を竜の舌になぞらえたものとされる。▼用途は広い。メキシコでは若い花茎の基部から溢れ出る樹液を醸造し、プルケという飲み物 (酒類の一種) をつくる。テキーラはテクウィラナ種 (アガーウェー・テクウィラナ *A. tequilana* 1902; テキーラリュウゼツラン) の花茎からとった樹液を発酵・蒸留した酒である。蜜 (アガヴェ・シロップ) は独特の上品な強い甘みがあり、甘味料として広く使われる。サイザル種 (アガーウェー・シサラナ *A. sisalana* 1838) の葉からは光沢のある美しい繊維が採れ、サイザル麻と呼ばれる。花茎をスライスし乾燥したものはカミソリ研ぎに利用される。メキシコの先住民は刺をペン、釘、針として使ってきた。

茎・幹 短茎。茎は通常は太く短い。茎の付け根からサッカーが盛んに発生して萌芽し新株の口ゼットになる。

葉 堅く、多肉・多汁質、かつ、繊維質。先端に鋭く強い刺があり、縁にも刺がある。[出方・配列] 口ゼット、根生。[葉縁] 鋸歯縁。[葉身] 披針形、卵形、倒卵形、長三角形、楕円形、長楕円形、広楕円形、剣状、線形。

花 口ゼットの中心から花序が伸びる。多くの種は開花、結実後に枯れる。その後には育つ子株が数年後に開花する。

[花序] 散形花序、穂状花序、球形花序、円錐花序。

光の条件 1 日陰 2 明るい日陰 3 半日陰 4 明るい半日陰 5 直射日光

温度性質 1 強耐寒性 2 耐霜性 3 半耐寒性 4 非耐寒性 [耐寒温度] -3~2℃ [生育適温] 10~25℃

空中湿度 1 乾燥 2 乾燥ぎみ 3 中湿 4 多湿ぎみ 5 多湿

土壌湿度 1 乾燥 2 乾燥ぎみ 3 中湿 4 多湿 5 水浸

栽培用土 水はけがよい土。[肥沃度] 肥料分が少ない。[用土例] サボテン用土 / 壤土1+腐植1+砂2

肥料 [元肥] 不要。[置肥] 生育期に3~4回。※ 低窒素肥料を用いる。

植付け・植替え サボテン同様の植え方。(1) 鉢に土を入れ、中央を盛り上げる。(2) 根を広げて株を置き、株がぐらつかなくなるまで土を入れる。(3) 土を鎮圧してから、静かにたっぷり灌水する。

水やり 夏はたっぷり灌水する。冷涼期から量と頻度を減らし、真冬は土を乾燥ぎみにして、ひかえめに灌水する。

手入れ 剪定は不要。放任でよい。刺が鋭いので注意する。ときどき葉を流水洗浄する。

冬越し 寒さに強い種は戸外の日当たりで可。霜に弱い種は室内とする。鉢植えは室内の日の当たる窓辺がよい。

繁殖 [繁殖方法] 実生 (春/21℃)、挿し木。※ 春か秋に子株 (= 吸枝 <きゅうし>) を離し、独立させる。根のついたものは定植し、根のないものは砂と腐葉土を等量混ぜた用土に挿し木して発根させる。

Agave

アガヴェ

アガーウェー

Photo 1



テキーラリュウゼツラン (*A. tequilana* アガウェ・テクウィラナ) の幼苗。メキシコの酒「テキーラ」の原料になる種。葉が硬く、厚い。刺も非常に鋭い。熱帯では株の高さが120~180cmと人の背丈ほどにも生長する。青みを帯びた色をしているので Blue Agave (ブルー・アガーヴィ) とも呼ばれる。▼画像は都内のホームセンターで販売されていたもの。[撮影 東京・杉並、2007年3月]

Agave

アガヴェ

アガーウェー

Photo 2



園芸品種の、和名「ササノユキ」。学名はアガウェ・ウィクトーラエ・レギナエ (*A. victoriae-reginae*)。victōria (ウィクトーリア) は勝利、成功の意、rēgīna (レーギーナ) は女王、王女の意だが、イギリス・ハノーヴァー朝第6代のヴィクトリア女王に因んだものと考えられる。イギリスのヴィクトリア期の中盤、1875年、園芸家で植物学者のトーマス・ムーアの命名として公開された。▼ササノユキは0°Cで越冬するとされる半耐寒種で、他にも園芸品種がある。[撮影 東京・神代植物公園、2007年3月]

Agave

アガヴェ

アガーウェー



[生育適温] 10~25℃
[耐寒温度] -3~2℃

空中湿度

1 2 3 4 5



明るさ

1 2 3 4 5



土壌湿度

1 2 3 4 5



植生 熱帯の砂漠や山などのやせた乾燥地に自生。地生。高さ15cm~5m。

土壌 水はけがよい。[肥沃度] 肥料分が少ない。

用土 サボテン用土、壤土1+腐植1+砂2

肥料 [元肥] 不要。[置肥] 生育期に3~4回。※ 低窒素肥料を用いる。

水やり 夏はたっぷり灌水する。冷涼期から量と頻度を減らし、真冬は土を乾燥ぎみにして、ひかえめに灌水する。

温度区分	■ 厳寒・寒冷期	■ 冷涼期	■ 温暖期	■ 高温期
温度帯	~ 8/16℃	9/17 ~ 13/21℃	14/22 ~ 18/26℃	19/27℃ ~
季節	冬	→ 早春~晩春 ← 中秋~晩秋	→ 初夏~梅雨 ← 晩夏~初秋	→ 夏、盛夏
光	室内の日当たり	日当たり	日当たり	日当たり
植付け			初夏	
水やり	土全体が乾いてから	表土が乾いてから数日後に	表土が乾いてから2~3日後	表土が乾いてから2~3日後
繁殖		実生・挿し木	実生	

■ 高温期：1日平均気温23℃以上 (19/27℃~)。寒冷地植物の生育が劣るかまたは困難。【特徴】 夏日、真夏日。/夏、盛夏。

■ 温暖期：1日平均気温20±2℃ (14/22~18/26℃)。熱帯植物が十分に生育可能。【特徴】 光合成のピーク。/初夏~梅雨、晩夏~初秋。

■ 冷涼期：1日平均気温15±2℃ (9/17~13/21℃)。ヤシ、非耐寒植物が生存できる低限域。【特徴】 桜の開花。彼岸。/早春~晩春、中秋~晩秋。

■ 寒冷期：1日平均気温10±2℃ (4/12~ 8/16℃)。非耐寒植物の生存の分かれ目。【特徴】 光合成のほぼ下限。/冬。

■ 厳寒期：1日平均気温5±2℃以下 (~ 3/11℃)。多くの植物の枯死、休眠が見られる温度帯。【特徴】 降霜、凍結、冬日 (霜日)。/冬。

※ 1日の気温較差は平均気温を中心として±4℃の8℃としてある。これは全国主要地点の過去のデータから算出した平均値による。